

令和4年度柏市保健衛生審議会母子保健部会会議録

1 開催日時

令和4年11月21日（月）午後3時～午後4時30分

2 開催場所

ウェルネス柏1階こども健康ルーム

3 出席者

(1) 委員

足立委員，石橋委員，菊池委員，窪谷委員，黒滝委員，佐藤委員，杉山委員，並木委員，萩原委員，林委員，平野委員，山田委員，和田委員

(2) 関係課等

（保健所）依田保健所長，恒岡保健所次長，田中保健所技監，小倉保健予防課長，浅野健康増進課長

（こども部）渡会子育て支援課長，野戸こども支援室長，前田保育運営課長，丸山こども発達センター所長

（保健福祉部）渡辺清一障害福祉課長

（教育委員会学校教育部）中村学校保健課次長兼課長

（事務局）星地域保健課長，山田同統括リーダー，林同専門監，鹿野副主幹，廣田副主幹，阿部主査，三原主査，齋藤主査，岩田主査，平岡主任，中渡主事，小松主事

4 議題

(1) 令和4年度柏市保健衛生審議会について

(2) 柏市母子保健計画の推進について

(3) 柏市母子保健事業の取り組みについて

5 議事（要旨）

(1) 開会

・会議成立

委員14人中13名の出席にて，会議の成立を報告。

(渡邊委員は欠席)

(2) 挨拶

(3) 委員及び事務局紹介

(4) 部会長・副部会長の選任

- ・部会長に佐藤委員，副部会長に和田委員が選出。
- ・部会長，副部会長挨拶

(5) 議事

ア 令和4年度柏市保健衛生審議会について（事務局説明）

- ・令和4年度柏市保健衛生審議会において，柏市母子保健計画の進捗について説明したことを報告。

質疑応答

- ・なし

イ 柏市母子保健計画の推進について（事務局説明）

- ・「柏市母子保健計画中間評価とその結果に基づく計画の見直し」の概要，周知状況について説明。
- ・柏市母子保健計画の進捗状況の確認方法について説明。

質疑応答

- ・（足立委員）市民に情報が届きづらいと感じている。柏市母子保健計画中間評価の周知方法について，ホームページ以外にアプリ等でも情報を発信しているのか。
- ・（事務局）ホームページの内容はスマートフォンでもはぐはぐ柏というページで見られる形になっている。また，電子親子手帳という電子ツールを活用し，あらかじめ登録した方にプッシュ配信等で情報提供を行っている。引き続き電子親子手帳を活用して新しい情報をお伝えしていきたい。
- ・（菊池委員）参考資料のスライド8に記載されている健康行動と健康水準に該当する指標はどこで確認できるか。
- ・（事務局）「柏市母子保健計画中間評価とその結果に基づく計画の見直し」15ページの基本目標・施策分野別・種類別指標一覧で，各指標がどの種類に該当するか記載している。
- ・（佐藤委員）初参加の方もいるため，健康水準，健康行動，環境整備がどのようなものを指すか，説明を加えてほしい。

- ・（事務局）同冊子14ページに記載しているとおりに、健康水準はQOLを含む市民の保健水準，健康行動は保健水準達成のための市民一人ひとりが取り組むべき事項，環境整備は事業の実施，サービスの提供，施設・設備の整備等資源・環境の整備に対して行政や関係機関・団体が寄与しうる取組として整理している。
- ・（黒滝委員）基本目標2（2）について，社会的背景が関与すると思う。資料3では生活困窮の要支援家庭の割合が記載されていたが，増加や減少等の推移は分かるか。
- ・（事務局）明らかなデータは把握していないが，保健師が支援している背景として，ひとり親家庭，低所得等が要因となっている方が増加傾向にあると受け止めている。
- ・（佐藤委員）周知状況について，柏市民健康づくり推進員連絡協議会役員会および各地域の定例会で説明を行ったという話であった。地域住民の方からどのような反応や意見があったか教えてほしい。
- ・（平野委員）特別な反応はなかった。
- ・（事務局）基本施策1（1）③「地域ぐるみの子育て支援の充実」という項目に，柏市民健康づくり推進員が行っている母と子のつどいという子育て支援事業が記載されている。コロナ禍で約2年間休止していたが，親子同士が触れ合う場所が限られている現状を踏まえ，今年6月から順次再開している。再開を待ち望んでいたという声を聞き，地域で支援を求めている方が多くいることを実感した。柏市民健康づくり推進員とも共有し，子育て支援に取り組んでいきたい。
- ・（菊池委員）周知状況について，学校教育関係が含まれていない。基本目標2の達成率が低いため，学校や教員，児童生徒，保護者等を周知先に入れてほしい。
- ・（萩原委員）菊池委員同様，学校での周知を進めてほしいと考えている。小学校低学年は年下の兄弟がいることが多く，ひとり親家庭を含めて来校することもあるため，QRコード等を活用した掲示を行い，スマートフォンから簡単にアクセスできるような機会を与えられると良いと思う。

- ・（事務局）施策分野２（２）「健やかな体と心をつくる学びの推進」という項目で学校と連携している。今後の取り組みについては、学校教育関係を含めて考えていきたい。今できることを実施しながらお互いの理解を深め、新たな取り組みや個別対応にも繋げていきたい。
- ・（和田委員）医療現場では、コロナの影響で予防接種が遅れたり、乳児健診を控えたりする方がいる。救急患者の数も約半数になっている。予防接種事業がどの程度元に戻っているか、乳児健診受診票の使用状況はどうか、出してもらえるとどこが弱いポイントか見えてくると思う。
- ・（事務局）妊娠届出や新生児訪問の際に、予防接種や健診の必要性を改めて伝えていきたい。
- ・（健康増進課）コロナを理由に接種を控えていた方に対しては、接種期間外でも公費で接種を受けられる制度を運用している。一時的にワクチンの供給量が減少した時期もあったが、接種率が大きく下がったということはない。
- ・（事務局）乳児健診の受診率も大きく減少していることはないが、受診に対する不安を抱えている方は一定数いる。健診の必要性や受診時の感染対策について繰り返し伝えていく。
- ・（和田委員）世の中はコロナを怖がるのではなく、フリーな時代になっているため、小児医療や子育てもその流れに乗っていきたい。
- ・（佐藤委員）乳幼児健診の未受診率は、母子保健計画の指標にも含まれているため、データの変動を見ながら考察していけると良いと思う。
- ・（林委員）私立認可保育園協議会の子育て支援部会会長、地域保健課長と話し、私立認可保育園としては柏市と繋がっていきたいと考えている。ただ保育していれば良いという時代ではなく、子育て支援や親支援が重要視されており、保育所保育指針も改訂された。地域子育て支援センターという拠点事業をしている園では、参加できない親をどう支援していくかが課題になっている。保育園や支援センターに来ている親子は良いが、保育園や幼稚園に行っていない親子にどう手を

差し伸べるか。さまざまな方面から関わっていけると良いと思う。地域で出前保育をしていると、そのような家庭に出会うことがあり、話しながら涙される方や、「これは虐待ですか」と聞いてくる方がいるというのが現状。保育園で終わりではなく、小学校に繋いでいく立場として、繋がるという部分が課題だと感じる。さまざまな機関と繋がり、母子保健部会で検討している内容を広げていくことが大切だと思う。

- ・（事務局）私立認可保育園協議会の方と情報共有ができたことで、顔が見える関係になって心強く思っている。母子保健は全数対象の事業として妊娠届出や新生児訪問、1歳6か月児健診、3歳児健診があり、すべての方に情報提供できることが強み。保健師が個別支援を行っている方も多くいるため、個別性に応じた進め方をしていきたいと考えている。
- ・（菊池委員）資料7について、今までの議論を踏まえ、事業概要や実績値の作り方の話をしたい。環境整備は整っているが、健康行動や健康水準に進んでいかない。自助、共助、公助の感覚で考えると、家族で何とかしてもらおう健康行動、地域で支え合って行う健康行動、市のサービスを利用してもらう健康行動の3つに分けて考えると良いと思う。環境整備が整っている、例えば電話相談はあるが、そこに辿り着くための繋がりを作る事業として、個別訪問等が必要になる。その点を事業概要に含めると役立つのではないか。実績値も健康行動、健康水準、環境整備に指標が分かれているため、どこが進んでいるか見やすくなると思う。
- ・（事務局）環境整備したことを健康水準や健康行動に繋げていけるよう、参考にしながら取り入れたいと思う。
- ・（佐藤委員）公的機関としてのサービスがどの評価指標と関係しているか、アウトカムとの関係が分かるようにした方が良い。ほとんどが公的機関としてのサービス提供だと思うが、自助や共助、ネットワークづくりに関わる取り組みがあれば、区別できるよう工夫してもらいたい。

ウ 柏市母子保健事業の取り組みについて（事務局説明）

- ・ 柏市の母子保健事業の推移より，令和3年の重点的取り組みについて説明。
- ・ 令和4年度重点的な取り組みについて説明。

質疑応答

- ・ (窪谷委員) 柏市では，妊娠届出の全数面接を行っている。そこから，傾向がわかり支援に繋がっているのは素晴らしいことだと思う。その後，母子の支援が小児科にバトンタッチしていくと思うが，母の状況，生活環境，社会的なリスク，メンタルの課題などの情報を継続して確認できるものがあるとよい。場合によっては，精神科医師も見られるようなフォーマットツール，もしくは子育て支援情報など，幅広く繋がるようなものを今後作っていただけるのを期待したい。現在，具体的に小児科とはどのように繋がっているのか。
- ・ (事務局) 切れ目のない支援には，医療機関との連携が必須と感じている。母子健康手帳については，母親の目に留まるものであり，母親が了解した上で情報を記載している。情報共有を図るための活用は可能であると思うが，保護者の了解が得られない場合も多くある。現在は，医療機関ごとの独自のサマリーで情報共有をする，地域担当の保健師が直接連絡をとる方法で，個別に報告をしている。
- ・ (菊池委員) EPDS (エジンバラ産後うつ病質問票) はどのタイミングでとっているのか。また，小児科に繋げる時などは，どのように活用できるのか。
- ・ (事務局) 現在，新生児訪問の際に必ず訪問した助産師又は保健師がEPDSをとっている。その中で不安が高いようであれば再度訪問等の個別に応じた支援の強化を行っている。
- ・ (佐藤委員) サマリーに決まった様式はあるのか。
- ・ (事務局) それぞれの医療機関の様式を使用している。柏市も，独自の様式で返信している。
- ・ (佐藤委員) 小児科や精神科への情報提供はどのようにしているか。
- ・ (事務局) 医療機関への情報共有については，全ての情報ではなく，必要な情報について伝えている。

- ・（和田委員）現在の母子健康手帳に，医療機関や行政の情報が入り込めるようなシステムがあるとよいと感じている。また，母子健康手帳は小学生以上になると予防接種も終わりあまり活用しない傾向にある。今後は子育てにも活用できるようにしていけるとよいと思う。
 - ・（事務局）母子健康手帳の内容については，厚生労働省より現況に合わせて年々改正を行っているため，今後も国の動きを注視していきたい。
 - ・（菊池委員）母子健康手帳については，ネーミングの変更という問題もある。母子健康手帳の活用方法としては，ヘルスプロモーションの図を母子健康手帳に入れ込むことで，学校教育でヘルスプロモーションや自分の生き立ちについて母子健康手帳を用いて伝えていく教育がなされてることが必要だと感じている。
- 柏市の電子親子手帳は，当初とても注目していたが，電子の役割が十分に活用できておらず，一方的な発信ツールになってしまっている。作り手として更なる活用方法を提案できるところがあるのではないかと，この議事録に残しておくと思う。
- ・（事務局）母子健康手帳には，記録を書くだけでなく情報を提供するという啓発も含まれてる。電子親子手帳の更なる活用方法について今後考えていきたいと思う。

(6) その他

(7) 閉会

6 傍聴者

0人